

國語

〔共通問題〕

〔一〕 次の文章は、詩人・石垣りん（一九二〇～二〇〇四）が銀行に勤めていたころ、社内報（『職場しんぶん』）で読んだ同僚男性の文章に触れて書いたエッセイである。これを読み、後の問いに答えなさい。

先ごろ職場しんぶん、私たちの銀行の人は大へん良い顔をしている、という一文が^(ア)ノった。

それは比較の問題だから、銀行以外の人、つまり世間一般の人々にくらべてみて良い顔をしている。良い、といっても形だとか色だとか様々な良さがあるから、何が良いのか、といえはこの場合何となく、であり、人が^(イ)良い、ということなのだ、と受け取った。

しばらくすると、それに次いでまた一文あった。

本当に銀行の人は良い顔をしている、ことにわが子息たちはまことに良い顔をしているが、このタイソウな世間を前にして、この良い顔をした子供たちはどうやって世渡りをしてゆくであろう。という、それは、親ともなればそういう心配もあろうかと、心うたれる文章でもあった。

ふたつの文章を読み終えて、私の頭鉢^{すはつ}から浮き上がってきた感想は、どうしたわけか、綿アメのようにやわらかく、あじわってみて甘いものだった。

⁽¹⁾ 「何という幸福な人たちだろう」

かねて私が、ひそかに深い敬意を払っているこの筆者は、勿論^{もちろん}そんな甘いことを書いたのではない、それとはまったく反対なことを暗に指摘して、考慮をうながしたものである。それならなぜ、それを共々に不安となし得ないか。

私は勤続二十五年を数えるが、入行当初に、机を並べて仕事をしている男性を眺め、少女の直感で思いあたったのが「女でよかった」ということだった。

幸福、などという言葉はかなり思考をとまなったものだ、と私は思う。直観的には、よかった、とか、うれしい、といった言葉の方が出やすい。私が女でよかった、と思ったとき、私は女であることを幸福だ、^(ウ)と言いかえてもよかった、と思う。それは銀行業務に対する否定、一生の業務としないですむ喜びであった。その喜びは、自分が肯定できる業務に⁽²⁾つくことの出来ない最大の不幸について考えおぼなかつたのである。それは私だけの愚かしさに違いの⁽²⁾だけだ、その最大の不幸を忘れさせたものは何か、⁽²⁾と言えは生活の困難さ、であったと思う。もしくは困難さへの不安であった。当時もまた非常な就職難で、銀行へはいれた、⁽²⁾ということは、それだけでもう客観的には幸福、といわなければなら

らない状態だった。

そのころ、女性の地位は極端に低かった。^B封建社会になぞらえるなら武士と町人のへだたり、階級がまるで違う扱い。女性は親睦会に入会することも出来なければ、寮の使用もゆるさず職場結婚などもつての外であった。少し無理な表現かもしれないが、今流の言葉を借用すれば、女性は完全な i であった。違う立場から男性を見る、という目は、この長い期間に私の身についてしまつて、離れない。

今の若い女性はどういう感じ方で、銀行へはいってくるだろう。とにかく ii の席は全部とり払われ、すべての席が iii にとりつけられている。みな同等なのだ、けれどもかなしいかな私は、iv として物を考えるホウトを失っているらしいのである。

それが何かの場合につけ、同感とならず、批判となってしまう。(私としては深いなじみの銀行に、何というなじむ心の浅い人間として暮していることだろう)

立派な文章を読みながら、その味は甘かった、などというのも、ざっと、右のような心の形成を持つ者のフラちな感慨なのである。

私は、私が言つては僭越^{せんえつ}になる、前記の父親の誠実さと、深いあたたかさから推して、^(b)それに輪^(c)をかけた御子息の姿を容易に思ひえがくことが出来て、素直にその心配に打たれる気持が本当はあつたのだ。けれど、……

ある時、銀行員の家族と一緒に旅行をしたことがある。連れられてきた子供さんは皆、かわいらしく、組合で、苦しい苦しいと言っている私たちの庇護^{ひご}を充分に受けた、育ちの良い顔をしていられた。

しかし時がたつにつれ、一人の父親が見せた自分の子供に対する放任ぶりは目にあまるものがあつた。女性に対する言葉づかいといい、食事のあとテーブルの上をかけ廻^{まわ}るなどに至つては、たしなめようとしなない父親にむしろイキドオ^(オ)りさを感じた。

貧しいとはいえ、日本中が貧しい中で、銀行員の給料は先ず上、と言つてさしつかえないだろう。この子供たちはこんな形で愛され、そしてもっと貧しい者たちが進学も就職も困難な中で、割合からみれば恵まれた環境で、上級学校も出、それなりによい職場も得、つまりは銀行員の父親のように、次の世代でも上、の位置につくのではないか、というやりきれなさであつた。

このような利己的な傍 I 無人さで、次の中間層が育てられるのか、というやりきれなさであつた。たぶん、これは例外中の例外、と胸を撫^(c)でておいた。

けれど貧しさの中で、かつかつに食べ、したい勉強も出来ぬいだちに、顔がかわるほどの苦勞をしている人間の多い、そこではたくさん醜惡な事が行なわれている世間、でいい顔をしている人間の集^{あつ}まりである銀行という村落の幸福、というのとは一体どういう性質のものであるのだろう。

旅行でみたことは、たしかに例外であるとしても、利己^(カ)とホシンを拡大すれば、どれもあの姿に見えてくるのは残念である。それこそ人間の本質である、と人はいうだろうか。

私は青い鳥のお話が好きであった。

半ズボンと帽子の似合うチルチルと、ふくらんだスカートを着て髪の毛のちぢれた可愛^{かわい}いミチルが、きれいな鳥籠を持って旅をする。そしてさがし廻った幸福は、さがさないでもよい、ごく身近な所にあった、という。

それは、随分説得力のある、美しい物語に違いなかった。

幸福、といえはすぐ頭に浮かぶほど、私の子供の頃には、幼い心にしみとおりに行きわたっていた青い鳥。

私はそういう幸福への考えかたを、しばらく本棚へあずけておくことにしたい、と思う。

現在は、みんなで、たくさん幸福をさがしまわらなければならぬまい、と考えている。

幸福にもいろいろ種類がある、青い鳥に象徴された、どちらかといえば⁽³⁾観念的な幸福というものは、時に人間を危険におとし入れるものではないのか。

こんなに大勢の人達が、物質的にも精神的にも困り果てているときに、どうして手もとにあるものの中に幸福を感じなければならないだろう。いつだって、総がかりで求めなければならないものが人間の幸福なのだ。

そんなにも幸福が足りないとき、そのかけらを手にした人間が、すっかり満足してしまう。かけらでしかなくたって、持てない人より、どんなにましかわかりはしない。

はたに無ければいほど、その喜びが大きくなる。戦争中のさつま芋のうまさを思い出させる。

が、そのかけらは、持っていない者から見れば宝である。持っていない者のうちには奪いとっても自分の手に入れたい、と願うこともあるだろう。

持っている者の、不安と焦燥が生じる。少ない物の奪い合いとなる。これが現状として私の目にうつってくる。

だから、かけらならかけらなりに、たくさんさがし、持っていない人たちにも持ってもらうようにしなければ、⁽⁴⁾どうしても困るのだ。その人たちのためばかりでなく、自分たちのためにも。

ここまで書いてみると、私^(e)がれいれいしく幸福、と呼んでいるものが、かなり物質的な意味あいのものであることに突きあたる。そうなのだ、今、何が自分や隣人を不幸にみちびいているか、と言えは基本的にそこへ結びついていってしまう。

先年私は慶應病院の三等病室に半年を送ったけれど、六つ並んだベッドに寝たきりの老少におとずれるのは病苦の差だけではなかった。

見舞にきてくれた同僚は「あなた保険料のモトをとったわね」と祝ってくれたが、保険のない女中さんが、もう少しあればよいのに、というような容態であるのに「はずかしいけど、私お金が無いのよ」と言って退院したり、十日目毎の支払日に自分の手術料の金額を気にしている主婦をみるのは、つらかった。

「何という幸福な人たちだろう」

と銀行員に向かって思うとき、その人たちの不幸は見ぬいている筈なのだ。なぜならその次に提示されてあるものが不安、でしかないから。

私は銀行員が、現在従事している業務それ自体に、どれだけ幸福だ、と意識している人があるか、大変疑問に思っている。幸福だって相対的なものであることをまぬがれないから。日本中の人が一応安定した仕事と、将来を約束されたなら、銀行員（全部とはいわない）の不幸はそこからあらためて、はじまるだろう。私はその不幸が、一日も早くはじまって欲しいのだ。不幸の自覚がなければ、幸福の進展なんてありはしない。

（石垣りん『ユーモアの鎖国』による）

問一 傍線部(ア) (カ) のカタカナで表記された語句と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。解
 答番号は

1

6

。

(ア) ノった

1

- ① セキサイ重量を超えた荷物を運ぶ
- ② 杓子しゃくしジョウギな考え方をやめる
- ③ イサイを放つ新人が現れた
- ④ サイコウを考えて窓を多くつくる
- ⑤ 飛行機のトウジョウ手続きをする

(イ) タイソウ

2

- ① 思いがけないできごとにソウグウする
- ② 山頂からのソウカンな景色を楽しむ
- ③ ジュウソウを使って掃除をする
- ④ あのチソウから化石が発見された
- ⑤ ソウギョウ停止の危機に陥る

(ウ) ツく

3

- ① 過去にシュウチャクする
- ② ジュジュツの効果を信じる
- ③ ジュチュウ生産を行う
- ④ 古いシュウゾクを現代に伝える
- ⑤ 目標のジョウジュに向けて努力する

(エ) ホウト

4

- ① キトを達成する
- ② 本音をトロする
- ③ ベット、入場料がかかる
- ④ まずトザングチを目指す
- ⑤ 家をジョウトする

(オ) イキドオリ

5

- ① あの言い訳はフンパンものだ
- ② この問題については諸説フンブンだ
- ③ フンボの地に帰る
- ④ ギフンを覚えずにいられない事件
- ⑤ フンコツサイシンの努力をする

(カ) ホシン

6

- ① シンシユクする物干し竿ざおを使う
- ② 放蕩ほうとうでシンダイが傾く
- ③ シンチョウな判断が必要だ
- ④ チームのイシンをかけて臨む
- ⑤ ルイシン課税方式をとる

問二 波線部 (a) (e) の本文中での意味として最も適切なものを、それぞれ次の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。解答番号は

7
11。

(a) 人が良い

7

- ① 気立てが良い
- ② 品が良い
- ③ 頭が良い
- ④ 付き合いが良い
- ⑤ 家柄が良い

(b) 推して

8

- ① 配慮すると
- ② 熟慮すると
- ③ 察すると
- ④ 勧めると
- ⑤ 思案すると

(c) 胸を撫でて

9

- ① 気持ちを静めて
- ② 気持ちをくつろがせて
- ③ 心を慰めて
- ④ 安心して
- ⑤ 心を温めて

(d) 本棚へあずけておく

10

① 知らぬ顔をしておく

② うち捨てておく

③ 注意をそらしておく

④ 保留にしておく

⑤ 管理しておく

(e) れいれいしく

11

① ことさら無理をして

② とくに配慮をして

③ とくに趣向を凝らして

④ とくにひいきして

⑤ ことさら飾りたてて

問三 空欄 に入る語の組み合わせとして最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は

12。

- | | | | | | | | | |
|---|---|---------|----|---------|-----|--------|----|---------|
| ① | i | アウトサイダー | ii | アウトサイダー | iii | インサイド | iv | インサイド |
| ② | i | アウトサイド | ii | アウトサイダー | iii | インサイド | iv | インサイド |
| ③ | i | インサイダー | ii | インサイド | iii | アウトサイド | iv | アウトサイダー |
| ④ | i | アウトサイダー | ii | アウトサイド | iii | インサイド | iv | インサイダー |
| ⑤ | i | アウトサイダー | ii | インサイド | iii | アウトサイド | iv | アウトサイダー |

問四 空欄 に入る漢字一文字を、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 如 ② 若 ③ 弱 ④ 着 ⑤ 寂

問五 傍線部(1)「何という幸福な人たちだろう」とあるが、「私」がそのように感じる理由として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 14。

- ① 「職場しんぶん」の記事の筆者は、我が子が大人になったあとも世間並みに暮らしていけるかどうかを心配しているが、「私」は経験上、彼らが親の保護を受けつづけられると知っているから。
- ② 「職場しんぶん」の記事の筆者は、銀行員の家族という共同体から出た子どもたちが冷遇されることを心配しているが、「私」は、彼らが外の社会でも、もてはやされることを知っているから。
- ③ 「職場しんぶん」の記事の筆者は、銀行員の子どもたちが社会に出てつらい経験をすることを心配しているが、「私」は、彼らが一般社会のなかでは恵まれた強者であることを知っているから。
- ④ 「職場しんぶん」の記事の筆者は、成長して世間に出れば、銀行員の子どもたちの顔つきが変わると考えているが、「私」は、世間に出る前からの困難で険しい顔になった人に多く会ってきたから。
- ⑤ 「職場しんぶん」の記事の筆者は、世渡りの苦勞で銀行員の子どもたちも財産を失うと考えているが、「私」は、彼らが独り立ちしてもなお豊かな暮らしのできる人々であると確信しているから。

問六 傍線部(2)「私だけの愚かしさ」とはどのようなものか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

解答番号は 15。

- ① 家族の生活のために、つまらない業務でも一生続けなければならない男性ではないことを喜んでいる「私」は、女性であるがゆえに銀行内で高い地位につく望みがないことに気づいていないので、「愚か」だと言える。
- ② 生活のために好きではない仕事をしている「私」は、男性のように一生働きつづける必要のないことを喜んでいるが、自分に合った業務について、生き生きと働く女性もいることを知らないので、「愚か」だと言える。
- ③ 将来の生活への不安から、好きではない仕事をしている「私」は、気軽に転職できる立場にあることを喜んでいるが、一生銀行で働きつづけるほうが高い賃金を得られることを知らないので、「愚か」だと言える。
- ④ 就職難のために好きな仕事を選べなかった「私」は、女性であるため一生働きつづけなくてもよいことを喜んでいるが、多くの男性は自分の肯定できる仕事を選んでいるという格差に気づいていないので、「愚か」だと言える。
- ⑤ 収入を得るために自分で良いと思えない銀行の業務を行い、それに一生携わらなくてもよいことを喜んでいる「私」は、自分の納得できる仕事を選んで就職することのできない不幸に気づいていないので、「愚か」だと言える。

問七 傍線部(3)「観念的な幸福というものは、時に人間を危険におとし入れる」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は

16。

- ① 逆説的な表現を用いて、広く読まれた物語の提示する幸福観であっても、ある人々には受け入れられず、幸福を求める協働を妨げる可能性があることを指摘している。
- ② 逆説的な表現を用いて、書物や物語から形成された幸福観が、現状の把握にもとづいて幸福を求める具体的な行動を起こすことを妨げる場合があることを指摘している。
- ③ 対比的な表現を用いて、多くの人に支持されたハッピーエンドの物語に、幸福に向けた現実的な行動を阻む要因がふくまれるという不幸があることを示している。
- ④ 対比的な表現を用いて、物語によって形成される幸福観が、物質的に困っている現状を認識する際の妨げとなり、幸福を実現させない不幸に気づかせようとしている。
- ⑤ 逆説的な表現を用いて、影響力の大きい書物や物語の示す幸福観に振り回され、人々の精神的、物質的な荒廃が広がっていく可能性を想起させようとしている。

問八 傍線部(4)「どうしても困るのだ」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えな

さい。解答番号は 17。

- ① 全体的に物やそれのもたらす幸福の足りない状況では、物を持たない人がなりふりかまわずにそれを探しまわるのはもちろん、現在いくらかを手に行っている人たちも、やがては自分たちにとっても不十分だということに気づいて、欠乏感にさいなまれることになるから。
- ② わずかな物しか手に入らない状況では、それすら持たない人が持っている人に追いつかなければならないという焦りを感じる一方で、持っている人も、手にした貴重な物や幸福をもっと大きくしなければいけないという焦りを常に感じて、安らげなくなるから。
- ③ 物質的な面でも精神的な面でも幸福の総量の足りない社会では、幸福を手にした人が、まだ手にしていない人とそれを分かち合おうとしても限界があり、結局奪い合いが起きて、争いに勝てない弱者が虐げられ、格差が拡大していくという悪循環が起きるから。
- ④ 幸福が全体に行きわたらない状況では、持っていない人は、ほんのわずかでも持っている人を切実にうらやみ、それを手に入れたと思うようになり、持っている人は、持っていない人にいつ奪われるかわからないという恐れを抱きつづけなければならぬから。
- ⑤ 物質と精神の両面で幸福の不十分な社会では、物を持てず生活に行きづまった人が、他者から物や幸福を奪うことを考えるようになり、持っている人にもそれをいつ他者に奪われるかわからないという不安が生じて、人々の間に信頼関係を築くことができないから。

問九 傍線部(5)「その不幸」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 18。

- ① 経済成長によって多くの人々の将来にわたる生活不安がなくなったために、銀行員という職業の利点がわからなくなり、仕事への意欲をなくしてしまうということ。
- ② 社会全体が豊かになり人々の間に格差がなくなると、銀行員という職業の社会的な地位が下がり、行っている業務に幸福を感じられなくなってしまうということ。
- ③ 十分な物資によって自分と多くの人々の生活の安定が保証されたために、現在行っている銀行の業務が自分に幸福を感じさせるものではないと気づいてしまうこと。
- ④ 大半の人々が安定した仕事と生活を得ると、銀行員として得られる幸福が絶対的なものではないことに気づいて、自分の職業に劣等感を感じるようになるということ。
- ⑤ 日本中の人々が安定した職業につくことで社会全体が変化しにくくなり、現在行っている銀行の業務に疑問を感じていたとしても、転職が難しくなるということ。

問十 この文章の筆者が詩人であることを知った高校生のXさんは、特徴的な表現を含む文を探して、点線部A～Eを【ノート】に書きだした。
これを見て、後の問い(一)～(三)に答えなさい。

【ノート】

- A 綿アメのようにやわらかく、あじわってみて甘いものだった。
B 封建社会になぞらえるなら武士と町人のへだたり、階級がまるで違う扱い。
C それに輪をかけた御子息の姿を容易に思いえがくことが出来て、
D 銀行という村落の幸福、というのは一体どういう性質のものであるだろう。
E 同僚は「あなた保険料のモトをとったわね」と祝ってくれた

(一) A～Eのうち、慣用句を含むものはどれか。次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 19。

- ① AとB ② AとE ③ BとD ④ CとD ⑤ CとE

(二) A～Eのうち、隠喩が用いられているのはどれか。次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 20。

- ① A ② B ③ C ④ D ⑤ E

(三) Xさんは【ノート】をもとに、この文章の表現の特徴について、クラスメートと話し合った。クラスメートの発言のうち、本文に照らして**適切でないもの**はどれか。次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 21。

- ① Aは、筆者のなかにわきあがってきた思いを、触覚や味覚に訴えるような食べ物で表していて、とてもわかりやすいね。
- ② 【ノート】にあがっているほかに、みんなに行きわたらないものを手に入れた喜びを「戦争中のさつま芋のうまさ」という例で表しているところがあったよ。これもわかりやすいと思う。
- ③ Bでは、当時の男女の違いを表すために、ちょっと大げさなたとえを使っていて、なんとなくユーモアや皮肉っぽさも感じた。
- ④ Bは体言止めになっていて、たたみかけるようなリズムがあっっておもしろいと思う。
- ⑤ Dでは自分がつめている銀行を「村落」にたとえているね。市や町より小さい村にたとえて、筆者が感じている職場の温かさや居心地のよさを表しているようだ。

〔選択問題〕〈現代文〉か〈古文〉かの、どちらかを選択して、一方のみを答えなさい。

〔二〕〈現代文〉次の文章は、一九六三年に発表されたものである。この文章を読み、後の問いに答えなさい。

かりにここに一人の青年がいて、たとえば紅葉した丘陵の樹々^{きぎ}がいつせいに風に揺れ、溪谷の水が清冽^{せいれつ}な響きをたてて流れるのに面して、何かの感慨にふけりながらたたずんでいたとする。ところで、その青年に対して自然の美に心を奪われるよりは政治問題について考慮すべきだと薦めうる確固たる論理が本当にあるのだろうか。

「人間は政治的動物である」というアリストテレスの命題に対して、「人間は自然内存在である」という老荘的命題も、同等の比重をもって定立^{ていりつ}しうる。いや、こればかりではなく「美的存在である」「倫理的動物である」等々の雑多^{ざた}な賓辞^{ひんじ}が、主語である人間には属^{ぞく}しうるのであって、それは人間が生まれたままの姿では実は何ものでもなく、何ものかにさせられ、あるいはなつてゆくのだということを意味しているにすぎない。さらに古代において洋の東西を問わず、政治性というものが教養人の必須の属性とみなされたのは、仁君や賢者によって統治されるのであるかぎり権力というものは、それ自体〈善〉である^①とみなされていたからであつて、個々の権力者や指導者の悪業ではなく、権力そのものが一種の悪として感じられるようになった以上は、政治性^①というものは、実は自然や美や倫理のように直接的に人間の名誉ある属性としては定立されえなくなっている。にもかかわらず、現在においてもなお、政治は一体なんの権利があつて、他のもろもろの人間の作業を中断させうるのか。おそらくは何の権利もないのである。

ただ、国家権力はむきだしの形態において人を殺しうることを極限とするもろもろの力によって、人間の尊厳をけがし、人を貧窮化させ、その自尊心をこつぱみじんに破壊することができる、というだけのことにすぎないのである。

思うに内臓の一部分、たとえば心臓がむやみに気にかかるという状態は、その人の心臓が病んでいることを意味するように、わたしたちにとって、政治のことが気懸^{きが}りなのは、人間が人間の生活を律する自律的道德から経済的調整にいたる幅の大きな部分に激しく病んでいる部分があることを意味する。しかし、もし幸運にも病苦を忘れるなら、私は必ずしもその忘却や無関心を非難はしない。その人にとって、より重要な課題が選ばれているなら、政治は力づくで何ごとかを強制することはできても、彼の関心を自分の方に常時しぼりつけておく権利はもっていないからである。政治の方法論とは、要するに、人間の社会の病める部分に関する知恵の体系であつて、何らかの価値を作りあげるための基本的条件である健康に到達すべき指針を指示はしえても、健康にたちかえつて後に、創造される諸価値についてはほとんど何の発言権ももっていないからである。

ただ病巢は人類全般に遍在するよりは、抵抗力の弱い階級や階層に偏る以上、当の病んでいる人間にとって、あるいは医者にとって、それを放っておくというわけにはいかない。病んだ鳥や獣が、自分が何故病んでいるのかも解^{わか}らないままに哀鳴するのはことなり、人間にはその《何故》を究明する能力と知恵がそなわっている。ただ遺憾ながら、人間社会の病める部分である政治を根絶する絶対療法というものはまだ見いだされておらず、政治に関する論策や実践は、つねに何ほどの程度において対症療法であることをまぬがれない。

それゆえに、政治的思考というものの基礎には、つねに《情勢論》というものが位置することになる。なぜなら政治は現在と現実の勢力関係から離れては政治としての意味を失うからであり、イデオロギーとして未来性がその論理のうちにとりこまれることはあっても、正確な診断つまり現状分析に立脚しない運動や施政はかならず破綻する。民主主義社会における政治実践の基体である政党も、各自の立場の自己正当化のために各自の未来像を鼓吹していても、労働者党や農民党、資本家の利益代表政党や、官僚や地主との結合はありえても、語の全き意味における未来党や絶対党というものは、政治の論理から言ってありえないのである。未来からの現在の客観視という哲学的思弁や、絶対への情熱に燃えながら現世の地獄に囚^{とら}われてある文学的悲哀が、特定の秀^{すぐ}れた指導者や理論家にそなわることは皆無とはいえないけれども、政治そのものはあくまでも散文的現実的な対症療法に終始せねばならない。⁽²⁾《情勢論》こそ、政治的思弁が永遠にぬけだすことのできない運命なのである。

そして現在、私たちの住む世界における情勢論のもっとも端的なあらわれは、身近な日常性に関係する「大衆社会論」であり、世界的な国際関係においては、原爆や水爆の存在を前提とする「平和共存論」である。すでによくもあしくも、原爆はアメリカの保有量だけで地球上の文明を数回、いや一説には十数回も破滅させることができる。ソビエト側における五十メガトン級、百メガトン級の水爆の完成は、また人類の文明に対して同じ意味をもつ。したがって、従来の解放戦争の理論は放棄されねばならないし、現在ひかれて^(注3)いる両陣営の境界線は固定されねばならない、とされる。境界の相互に監視しあう固定化だけでなく、それぞれの陣営の内部における自律的な変革の意志も、同じ論理によって抑圧され、情勢論に逆らう原則論を堅持する集団は、力の均衡を保とうとする双方から疎外され^(注2)圧迫される。

原爆が何のために作られたか、何のために必要以上に発展させられたか等の問題や、それを保有し、改良しつづける国家や政体のかかげる理念と、原爆がいかに抵触するかといった、いわば孤独な根本的設問は、すべてその情勢論に圧倒されてゆく運命にある。たとえば、民主主義というものは、それが代表制議会主義の形態をとる場合も、つねに全国民の供託による権力の大多数者の同意による発動を根本原則とする。ところが、原爆は、戦闘期における秘密保持を名分として、全き秘密裡^{ひみつり}に製造され、協力した科学者たちがその成果の予期以上の恐ろしさに後悔して、^(A)使用中止を勧告したのも無視して使用された。さらには、人民の生産する社会の富を階級や特定の党派による中間的搾取を排除して直接人民に還元することを至上命令とする社会主義国家においても、何ひとつ生産に役立たぬ武器の製造に社会の富を浪費することに対して、ただの一度も人民に謝罪するということは行われなかった。原爆の存在は、平和共存を正当化するものではなく、双方の体制のかかげる理念というのが虚偽であることを暴露するものだ、といった視点は、いまや孤立無援の非政治的思想としてしかありえなくなっている。

(注4) ハイネの『ハルツ紀行』に面白い人物が紹介されている。ザウル・アッシャーという猛烈な合理主義者で、常々亡霊の存在を否定していたのだが、死んでしまつてから、亡霊などこの世に存在しないことを数学的な厳密さで証明するために、亡霊の存在を信ずる愚昧なる人々の会話の席に、みずから亡霊となつてあらわれ出たというのである。

人々を哄笑^(注3)させるこの寓話^(注4)は、しかし考えてみると私たちを圍繞^(注5)する大状況の滑稽な現実であつて、戦争を防止するための核武装という論理はまさに「亡霊の論理」そのものと言わねばならない。いやそれだけにはとどまらない。たとえば、一つの体制はその体制の運動の極限化によつてみずから解体するという命題はすでに周知のところだが、その命題の正しさを証明するために登場したはずの前衛的集団が、時としてその命題を裏切る形態をとつてしまうのもまた亡者の矛盾の一例である。じつと身をこめていた時には正義を抱懷^(注6)した集団が、敵対する体制に対抗しうる十分な力をそなえた時、かえつて、矛盾そのもののような亡霊と化するのである。

一方、私たちの周辺で論じられている大衆社会論は、大衆の政治的無関心を、あるいは分析しあるいは叱責しながら、それでは一体どうしようとしていいのかと言へば、結局はより安易な床屋政談的情勢論を身につけよと勧告しているにすぎないのである。

(注5) 清水幾太郎の簡潔な要約に従えば、「大衆社会のメンバーとしての大衆が複雑で面倒な政治問題について、民主主義の原則が要求するような関心をもっていないということ、また大衆が自分の内部から積極的に行動する主体であるよりは、さまざまのメディアを通じて行われる外部あるいは上部からの操作の客体であるということ」(『現代の経験』大衆社会論の勝利)を大衆社会論は見いだした。清水幾太郎は、それに抗して大衆自身の政治的経験を重視しようとしているけれども、私にとっては、与えられる情報から、みずからの経験にいたるまでが、情勢論に支配されているということの方が重大であると印象される。

元来、民主主義政治というものは、本質的に情勢論を超えようとしないう性質をもつ。それは賢者独裁や一党独裁とは異なり、また宗教団体や科学者の団体とも相違して、おのおのの利害のあい反し、あるいは齟齬^(注7)する階級や階層が、情勢論的に事態を調整することをもつて法制の基礎とするものであつて、法を作るものは、独裁者の恣意や絶対者の観念ではないかわり、客観的な真理や何らかの理念でもないのである。

理念は、すでになされたことの正当化としてあとからつけ加えられたものにすぎない。そこでは現に大きな力をもつて存在するものは、その存在の善悪美醜にかかわらず承認される。いきおいすべての論議は力関係で処理され、現にあるものの見方の相違、立場の相違が問題になるけれども、

I という、道徳的な、あるいは存在論的な問いはどこからもでてこないのである。現在あるような型での人間存在はなくていいといった感情や、総体として人類の文明史は間違っているのではないかといった絶望的疑惑は、情勢論的思弁とは遂に無縁なのである。そして、一見、政治的無関心とみえるもののうちには、そうした根源的な思考がふくまれる可能性があり、さらには、意外に、この世界に大変動をもたらす思想というものは、非情勢論的な場に蟄居^(注8)している逸脱者によつて生みだされるものである。

(高橋和巳『孤立無援の思想』による)

- (注1) 賓辞……ある命題において、主題となる概念について述べられる言葉。たとえば「AはBである」という命題では、「Bである」の部分が賓辞にあたる。
- (注2) 解放戦争……他国や他民族の支配から人々を解放するために行われる戦争のこと。
- (注3) 両陣営……第二次世界大戦後の冷戦構造における、アメリカ合衆国を中心とする西側諸国と、ソビエト連邦を中心とする東側諸国のこと。
- (注4) ハイネ……ドイツの詩人（一七九七～一八五六）。
- (注5) 清水幾太郎……日本の社会学者・評論家（一九〇七～八八）。『現代の経験』は一九六三年刊。

問一 波線部 (a)・(b) はそれぞれどのような意味か。最も適切なものを、次の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。解答番号は

22 . 23。

(a) 対症療法

22

- ① 問題を根本的に解決するのではなく現に生じている状態に対処する方法
- ② 現実を分析的に読み解くのではなく自分の感覚に基づいて把握する方法
- ③ 現状を徹底的に分析するのではなく今後の変化の予測を重要視する方法
- ④ 病状を早急に改善させるのではなく試行錯誤しながら治療してゆく方法
- ⑤ 症状に合わせて治療するのではなく病気の根本的な原因を除去する方法

(b) 至上命令

23

- ① あらゆる場面で繰り返される命令
- ② 絶対に従わなければならない命令
- ③ 組織内では重視されていない命令
- ④ 目的や意図がきわめて明確な命令
- ⑤ 目上の者に対して発せられる命令

問二 傍線部(1)「政治性というものは、実は自然や美や倫理のようにには直接的に人間の名誉ある属性としては定立されえなくなっている」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 24。

- ① 政治的な権力が、優れた人格や能力を持つ者が行使する善良なものであるとはとらえられなくなり、政治的な行動や発言をすることが人間の美徳だとは考えられなくなっているということ。
- ② 仕事や家事で忙しい日常生活を送る現代の人々が、政治的な事柄について話し合うのを避けるようになり、政治に無関心な人でも社会的な地位が得られるようになっていくということ。
- ③ 政治的な権力を行使すれば、人間の生命も簡単に奪ってしまうということが明らかになったために、政治的な仕事に従事することが、非人道的で醜いことだと考えられているということ。
- ④ 政治的な権力を有する国家が、人間を精神的・経済的に幸福にすることも、不幸にすることもできるようになり、一人の人間が政治的な権力を行使することは困難になっているということ。
- ⑤ 優れた人格や能力を持たない者でも絶大な権力を掌握することが可能になり、知識や経験がない者ほど、政治的に価値のある行動や発言ができると考えられるようになったということ。

問三 傍線部(2)「情勢論」こそ、政治的思弁が永遠にぬけだすことのできない運命なのである。」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 25。

- ① 人間社会における政治は人間の身体における病気と同じで、まったく病気にかからないで過ごすことが免疫を低下させるように、まったく政治的な発言や行動が行われない社会は、滅亡に向かってゆくしかないものであるから。
- ② 政治は人々に未来への希望を抱かせるものであるため、社会の多くの人々が何を問題視し、何を求めているのかという現状分析を確実にし、それに応じたイデオロギーや政策を構築することで初めて価値を持つものであるから。
- ③ 政治は人々に未来への希望を抱かせるものであるため、政治活動の指導者や理論家は、多くの人々の支持を得ることを目的に、現状を客観視する哲学的な姿勢や、絶対的な真理を求める学問的な情熱を身につけることが求められるから。
- ④ 政治は人間社会の問題に現実的に対応するものであるため、政治的な思考は、絶対的な価値基準を設定したりそれに依拠したりすることは難しく、各時点の社会の状況を分析し、それに応じて判断するほかないものであるから。
- ⑤ 政治は人間社会の問題に現実的に対応するものであるため、政治的な思考には、抽象的な議論や実地検証の不可能な研究の成果は役に立たず、各時点の社会の権力者の状況を観察し、それに適応した判断をするほかないから。

問四 傍線部(3)「亡霊の論理」とは、ここではどのような意味か。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 26。

- ① ある目的を達成するために行動していながら、その行動そのものが社会全体に有害であることが自覚されていないということ。
- ② ある目的を達成するために行動していながら、実はその目的自体が無価値になるような状況が招き寄せられているということ。
- ③ ある目的を達成するために行動するにあたって、その目的とは逆の結果につながる手段が選択されてしまっているということ。
- ④ ある目的を達成するために行動するにあたって、その目的が周囲の人々に理解されないままになってしまっているということ。
- ⑤ ある目的を達成するために行動するにあたって、その様子があまりに滑稽なために人々に嘲笑されてしまっているということ。

問五 空欄

I

に入る言葉として、最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は

27

。

- ① 現にあるものが強いのか弱いのか、または、現にあるものが、本当に不変のものなのか、変わってゆくものなのか
- ② 現にあるものが美しいのか醜いのか、または、現にあるものが、本当に人道的なものなのか、非人道的なものなのか
- ③ 現にあるものは本当に存在するのか、または、現にあるものが、本当に普遍的なものなのか、非常に特殊なものなのか
- ④ 現にあるものがよいのか悪いのか、または、現にあるものが、本当にあるべきものなのか、なくともよいものなのか
- ⑤ 現にあるものが有意義なのか無意味なのか、または、現にあるものが、本当に無限なものなのか、有限なものなのか

問六 二重傍線部（A）「使用中止を勧告したのも無視して使用された」とあるが、次の【甲】・【乙】は、一九四五年に投下された原爆に関連する短歌・俳句である（出題者が適宜、括弧内にふりがなを付した）。これらの作品に対する鑑賞として、明らかに誤りを含むものを、次の中から二つ選び、番号で答えなさい。ただし、解答順は問わない。解答番号は 28 ・ 29。

【甲】 人に語ることならねども混葬^{（こんそう）}の火中にひらきゆきしてのひら （竹山広『どこしへの川』）

【乙】 湾曲^{（かじょう）}し火傷^{（かしょう）}し爆心地のマラソン （金子兜太『金子兜太句集』）

- ① 甲の短歌は、初句「人に語る」の字余りが、初二句の意味とともに、ためらいがちに話す口調を想像させ、三句目以下の情景は気軽に話せないという思いが感じられる。
- ② 甲の短歌は、下の句に「開」「掌^{（てのひら）}」などの漢字が用いられず、ひらがなが多用されており、人間の肉体の感触が生々しく伝わってくるように感じられる。
- ③ 甲の短歌は、複数の人々の遺体が同時に火葬されている様子を、長い時間にわたって見つめていた作者の表情が丁寧に描写されており、非常に臨場感がある。
- ④ 乙の俳句は、マラソンの走者たちの様子と、かつてこの地に投下された原爆の被害の様子という、同時には存在しなかったはずの二つの情景を提示している。
- ⑤ 乙の俳句は、「湾曲し」や「火傷し」が何の様子を示すのか不明だが、このように主語を明示しないことによって、甚大な被害の状況が暗示されていると考えられる。
- ⑥ 乙の俳句は、五・七・五の定型を忠実に守ることで伝統的な俳句の美意識を継承する一方で、戦争の悲惨さという近代的なテーマを詠んだことで大きな迫力が生まれている。

〔二〕〈古文〉 次の文章は、大宅世次おおやけのよつきという老人が、かつて侍従という人物（後の宇多天皇）に仕えていた頃のことなどを語っている内容の一部である。この文章を読み、後の問いに答えなさい。

十一月の二十余日のほどにや、鷹狩たかがりに、式部卿しきぶきやうの宮みやより出いでおはしましし御供みけに走りまゐりてはべりし。

賀茂（注2）の堤つみのそこそこのなる所に、侍従殿、鷹使はせたまひて、いみじう興に入らせたまへるほどに、にはかに霧たち、世間もかい暗がりてはべりしに、東西もおほえず、暮れ（B）のいぬるにやとおほえて、藪やぶの中に倒れ伏して、わななきまどひさぶらふほどに、時中やはべりけむ。

後（ア）にうけたまはれば、賀茂の明神（イ）のあらはれおはしまして、侍従殿（ウ）にも申させおはしますほどなりけり。そのことは、皆世に申しおかれてはべるなれば、なかなか申さじ。知ろしめしたらむ。（注3）あはそかに申すべきにはべらず。

さて後六年ばかりありてや、賀茂臨時の祭はじまりはべりけむ。（注4）位につかせおはしましし年とぞ覚えはべる。その日、酉とりの日にてはべれば、やがて霜月の果ての酉の日にてははべるぞ。はじめたる東遊（注5）の歌、敏行中將（注6）ぞかし。

ちはやぶる賀茂の社の姫小松よろづ代までも色は変はらじ

古今（2）に入りてはべり。皆人しろしめしたることなれど、いみじう詠みたまへるぬしかな。今に絶えずひろごらせたまへる御末とか。帝みかどと申せど、かくしもやはおはします。

（『大鏡』による）

（注1）式部卿の宮……時康親王（宇多天皇の父）の御所。

（注2）賀茂……京都の賀茂川。

（注3）あはそかに申すべきにはべらず……軽々しく話すべきではない。

（注4）その日……直前に述べられた鷹狩りの日のこと。

（注5）東遊……雅楽の曲目の一つ。元来は東国の楽であったとされる。

（注6）敏行……藤原敏行。

問一 傍線部（A）～（C）の意味として最も適切なものを、それぞれ次の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。解答番号は

32。

30

（A）御供に走りまゐりてはべりし

30

- ① 私は従者を連れて走って差し上げました
- ② 私は従者を走らせて献上をいたしました
- ③ 私は従者と一緒に走り回っておりました
- ④ 私は従者として走ってついて参りました
- ⑤ 私は従者として様々な物を手配しました

（B）暮れのいぬるにや

31

- ① 年末になってしまったのだろうか
- ② 年末に出かけて行ったはずはない
- ③ 夕暮れになってしまったのだろうか
- ④ 夕暮れに出かけて行ったはずはない
- ⑤ 夕暮れになってしまったはずはない

（C）位につかせおはしましし年

32

- ① 位階をお上げになられた年
- ② 位階を上げさせてしまった年
- ③ 位階を上げさせられた年
- ④ 天皇として即位させた年
- ⑤ 天皇として即位なさった年

問二 二重傍線部(1)「はべるなれば」を文法的に分解したものととして、最も適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 33。

- | | | | | | |
|---|--------|---|------------|---|------|
| ① | 動詞の連体形 | + | 伝聞の助動詞の已然形 | + | 接続助詞 |
| ② | 動詞の終止形 | + | 断定の助動詞の未然形 | + | 接続助詞 |
| ③ | 動詞の連体形 | + | 伝聞の助動詞の已然形 | + | 格助詞 |
| ④ | 動詞の終止形 | + | 完了の助動詞の未然形 | + | 格助詞 |
| ⑤ | 動詞の連体形 | + | 完了の助動詞の未然形 | + | 格助詞 |

問三 波線部(ア)「うけたまはれば」・(イ)「あらはれおはしまして」・(ウ)「もの申させおはします」の各部分の主語は何か。最も適切なものを、それぞれ次の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。同じ番号を二回以上用いてもよい。解答番号は、(ア)は 34・(イ)は 35・(ウ)は 36。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|------|---|-----|---|----|---|-------|---|----|---|------|
| ① | 大宅世次 | ② | 式部卿 | ③ | 侍従 | ④ | 賀茂の明神 | ⑤ | 世間 | ⑥ | 藤原敏行 |
|---|------|---|-----|---|----|---|-------|---|----|---|------|

問四 二重傍線部(2)「古今」は、ある和歌集を指している。その和歌集の撰者の一人であった人物の名前を次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 37。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|-------|---|------|---|-----|---|------|---|------|---|----|
| ① | 柿本人麻呂 | ② | 大伴家持 | ③ | 紀貫之 | ④ | 藤原公任 | ⑤ | 藤原定家 | ⑥ | 西行 |
|---|-------|---|------|---|-----|---|------|---|------|---|----|

問五 本文の内容・特徴に合致するものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 38。

- ① 大宅世次は、鷹狩りの際に出現した賀茂の明神からお告げの言葉を聞き、それを侍従に伝えたことから賀茂の明神の祭礼が開始された。
- ② 侍従と大宅世次は、鷹狩りの際に賀茂の明神のせいで霧の中で道に迷って恐ろしい経験をした話はあまり人々に聞かせないことにした。
- ③ 大宅世次は、賀茂の社の松の木を詠んだ藤原敏行の歌を高く評価し、自分も同様にすぐれた歌を詠んで、世間に認められたいと語った。
- ④ 「知ろしめしたらむ」、「皆人しろしめしたることなれど」のように、聞き手に一定の知識があることを前提とした語り口が認められる。
- ⑤ 助動詞「き」や「けむ」を多用することで、歴史的な出来事でも現在のことであるかのようにいきいきと感じさせる効果が生じている。